

多分野のアーティストらが
オンラインで活動を発信する
「AICHI ⇄ ONLINE」を開催します。

ART PROJECT AICHI ⇄ ONLINE

明日はみんなをまっている。
泉のようにわいている。
ランプのように点っている。

Tomorrow's awaiting every one of us.
Like a fountain it keeps springing.
Like a lamp it keeps glowing.

新型コロナウイルス感染症拡大により、創作活動に影響を受けたアーティストや企画者などに新作の制作を依頼し、ウェブサイトを通じてオンライン配信する、オンライン・アートプロジェクト「AICHI⇄ONLINE」がスタートします。オンラインで発表する作品の内容として、9つのプロジェクトの概要が決定しましたのでお知らせします。

(作品公開は2021年2月1日~3月21日を予定しています)

① プロジェクト・タイトル

オンライン・アートプロジェクト ア イ チ オ ン ラ イ ン 「AICHI ⇔ ONLINE」

② ロゴについて

「明日はみんなをまっけている。泉のようにわいている。らんぷのように点ってる。」

この言葉は、愛知県半田市生まれの児童文学作家である新美南吉が、1932年の19歳に発表した詩「明日」の一節です。29歳という短い生涯の中で「ごんぎつね」をはじめとする、人間の哀しみの中にある愛や美しさといった普遍性を描いた作品を創作した南吉ですが、その中でもこの詩は「創造」への希望を託しています。

「AICHI⇔ONLINE」は、新型コロナウイルスの感染拡大により文化芸術の灯火がついえそうな危機的状況の中で企画されました。絶えず流動的なこの禍中で「創造」の灯火を絶やすことなく明日へつないでいくプラットフォームのロゴに、この新美南吉の言葉を引用しました。










ロゴは、類のない線や形の文字やビジュアルを生み出す気鋭のグラフィックデザイナー三重野龍氏が掛けました。

③ 内容

愛知県内の場所や愛知県がもつ文化的財産に着目したプロジェクトを新たに制作し、オンライン上で発表します。文化芸術の表現者やその制作を支えるさまざまな職能を持つ人々と共に、表現活動が続けていくための後押しとなるよう、アーティストに作品制作を依頼することだけでなく、キュレーターらに企画を依頼したプロジェクトも含めた9つのプロジェクトです。

また、ジャンルの枠にとらわれないプロジェクトとすることで、より多くのアーティストやクリエイターが関わることを意図としています。

こうして制作された作品が、鑑賞者の心に残っていくことや表現者としての歴史に重要な作品として残ることを期待して、作品プランの実現に向けて、多様な専門性をもつ企画チームが併走し、文化芸術の灯を守っていききたいと考えています。

アーティスト名・企画者名	プロジェクト名	主な関連エリア・文化施設
山下敦弘  p.5	短編映画「タイトル未定」	未定
武部敬俊 / LIVERARY  p.6	ライブ&アーカイブ・プロジェクト 「LIVERARY LIVE RALLY "Extra" - YOUR CITY IS GOOD -」	ダイヤモンドホール、 長者町コットンビルほか 県内カルチャースポット 取材可能:撮影&ライブ 12月26日(土)
劇団うりんこ / うりんこ劇場  p.7	映像プロジェクト ベイビーシアター『MARIMO』	愛知県美術館 取材可能: 撮影 12月19日(土)、20日(日)
ON READING  p.8	短歌プロジェクト「ここでのこと」	県内各所(平和園、ナゴヤドーム、 ASTY、名古屋城本丸御殿、伏見駅、今池、 鶴舞公園、相生山緑地、栄周辺の通り)
玉山拓郎  p.9	オンライン・インスタレーション 『A glass of water (仮)』	愛知県美術館、鳳来寺山周辺、 伊良湖岬灯台周辺
西尾佳織 / 河村美雪  p.10	映像プロジェクト 『この町に住んでいる絵に会いに行く』	豊橋市美術博物館、 穂の国とよはし芸術劇場PLAT 取材可能:撮影 12月27日(日)
西田雅希 / 黒川岳  p.11	サウンド・インスタレーション 『甕々の声 (仮)』	とこなめ陶の森、アトラボあいち、 愛知県陶磁美術館 取材可能:展示 2月26日~3月30日(仮)
明貫紘子  p.12	アーカイブ・プロジェクト 「Archive of Media Art in Aichi(仮)」	名古屋市美術館
三浦よし木  p.13	読み切り漫画 『花をうめる(原作:新美南吉)』	新美南吉記念館

※関連文化施設は変更となる場合があります。

④ オンラインでの作品公開について

各作品は、特設ウェブサイト (<https://aichionline.jp/>) で公開します。

※オンライン公開の時期については、

ウェブサイトオープン:11月24日(火)

作品公開期間:2月1日(月)~3月21日(日)

※一部の作品やコンテンツは期間途中からの公開を予定しています。

⑤ アーティスト等緊急支援事業委託事業者

株式会社 Twelve

⑥ 問合せ

愛知県美術館企画業務グループ

〒461-8525 名古屋市東区東桜一丁目13番2号

電話 052-971-5511(代表)

企画・運営 | SAAC [Sustainable Arts Activity Cooperative]

プロデューサー：野田智子 (Twelve inc.)

メディアプロデューサー：山城大督 (Twelve inc.)

プロジェクトマネージャー：石川吉典

コミュニケーションディレクター：柴田直美

ウェブディレクター：中本真生 (UNGLOBAI STUDIO KYOTO)

コーディネーター：小林麻衣子 近藤令子 山口麻里菜

編集・翻訳：池田絵里佳

翻訳(「明日」新美南吉)：奥村雄樹

広報：有田泰子

ロゴデザイン：三重野龍

ウェブデザイン：中西要介 (STUDIO PT.) 根津小春 (STUDIO PT.)

ウェブデベロッパー：桐谷典親 (FLAM)

主催 | 愛知県 (文化芸術活動緊急支援金事業 / アーティスト等緊急支援事業)

監督：山下敦弘

短編映画『タイトル未定』



『リアリズムの宿』2003年 ©ピタース・エンド、パップ

愛知県半田市出身の映画監督・山下敦弘による短編映画を製作するプロジェクト。制作した短編映画はウェブサイトを通じて公開し、さらに愛知県内の映画館あるいは文化施設にて上映会を行います。

●映画監督
山下敦弘

(やました・のぶひろ) 1976年生まれ、愛知県出身。大阪芸術大学卒。『どんてん生活』(1999年)、『ばかのハコ船』(2003年)、『リアリズムの宿』(2003年)と“ダメ男三部作”を手がけ内外で評価を受ける。2005年『リンダ リンダ リンダ』が大ヒット、続く『天然コケッコ』(2007年)では第32回報知映画賞監督賞、第62回毎日映画コンクール日本映画優秀賞をはじめ数々の賞を受賞。その他の監督作品に『松ヶ根乱射事件』(2007年)、『マイ・バック・ページ』(2011年)、『苦役列車』『BUNGO/ 握った手』(2012年)、『もらとりあむタマ子』(2013年)、『超能力研究部の3人』(2014年)、『味園ユニバース』(2015年)『オーバー・フェンス』(2016年)、『ぼくのおじさん』(2016年)、『映画 山田孝之3D』(2017年)、『ハード・コア』(2018年)など。

企画：武部敬俊／LIVERARY

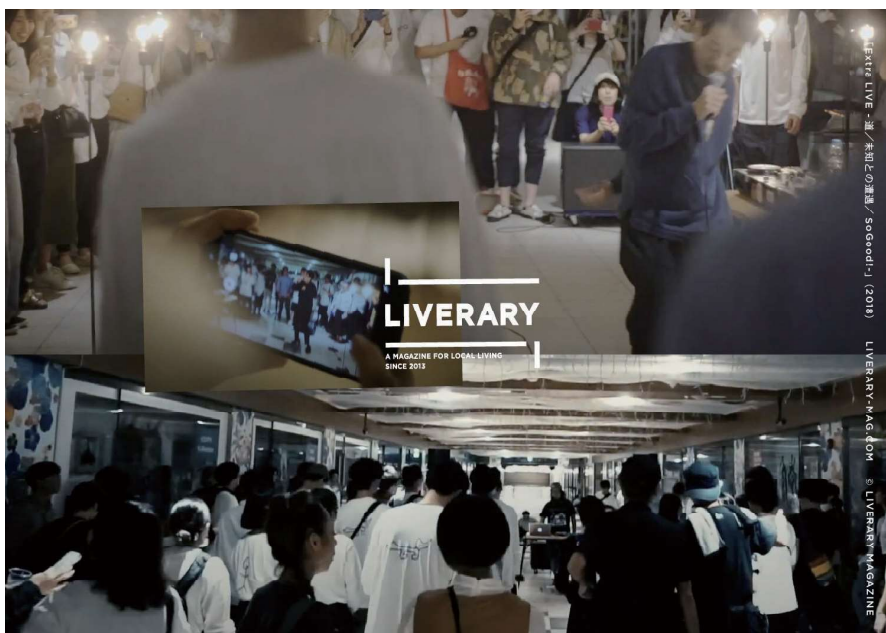
12月26日(土) | 撮影イベント開催。

詳細：<https://liverary-mag.com/>にて告知。

ライブ&アーカイブ・プロジェクト

「LIVERARY LIVE RALLY “Extra”—YOUR CITY IS GOOD—」

出演：STUTS、C.O.S.A、THE ACT WE ACT ほか 映像：大石規湖 撮影：イベント参加者ら



「EXTRA LIVE #1 ~道/未知との遭遇/ So good! ~」2018年 © LIVERARY MAGAZINE

名古屋市中区の音楽ホール「ダイヤモンドホール」をはじめとする県内の複数のライブハウスなどをつなげるプロジェクト「LIVERARY LIVE RALLY “Extra”—YOUR CITY IS GOOD—(ライブラリー・ライブ・ラリー・エクストラユア・シティ・イズ・グッドー)」。会場にゆかりのあるミュージシャンがライブを行い、その様子を撮影するイベントを行います。「観客」ではなく「撮影スタッフ」として参加した人々による、さまざまなアングルで切り取られたライブ映像を、音楽表現を支える人々の声も織り交ぜながら編集し、公開します。

●企画者

武部敬俊

(たけべ・たかし) フリーランスの編集者。1983年生まれ。岐阜市出身。これまでさまざまな編集プロダクション、出版社に勤務し編集ノウハウを学ぶ。本業と並行して取材〜デザインまで一人で手がける自主制作雑誌『THISIS(NOT)MAGAZINE』を企画・発行。2013年よりWebマガジン『LIVERARY』を仲間たちとともに始動し、名古屋を拠点にカルチャートピックを日々発信・提案し続けている。メディアの編集・運営のほか、イベントの企画制作、ショップのプロデュース、広告物や物販のグラフィックデザイン、アートワークまでを手掛け、広義における編集者として活動中。
<https://liverary-mag.com/>

●映像制作

大石規湖

(おおいし・のりこ) フリーランスの映像作家として、SPACE SHOWER TVやVICE japan、MTVなどの音楽番組に携わる。トクマルシューゴ、DEERHOOF、DEATHRO、怒髪天など数多くのアーティストのライブDVDやミュージックビデオを制作。独自の視点で切り取られたライブ映像、特にワンカメラでのライブシューティングには定評があり、音楽に関わる作品を作り続けている。映画では『kocorono』(2010年/川口潤監督)で監督補助を担当。2017年8月に初の長編映画『MOTHER FUCKER』公開。2020年10月劇場公開第二作目となるthe 原爆オナニーズのキャリア初となるドキュメンタリー映画『JUST ANOTHER』が公開された。また2018年に名古屋・栄でLIVERARYが企画開催した「Extra LIVE—道/未知との遭遇/SoGood!—」(環ROY、小林うてな、食品まつりら出演)にて映像撮影・ディレクションを担当。今回が2度目のコラボレーションとなる。www.norikooishi68.info/

企画：劇団うりんこ／うりんこ劇場

映像プロジェクト

「ベイベーシアター『MARIMO』」

出演：朝比奈緑＋川原美奈子 映像：山田晋平 衣装：藤谷香子
楽曲提供：福島一幸 音響：ノノヤママナコ 照明：福井孝子



うりんこ劇場がもっとも小さな観客に贈る舞台「ベイベーシアター『MARIMO』」撮影：服部義安

名古屋を拠点に活動し、児童向けの作品制作や公演事業で知られる劇団うりんこ／うりんこ劇場。2017年に、劇団員の朝比奈緑と川原美奈子が、脳科学者・神経心理学者・演出家・俳優であるジャッキー・E・チャンと共に創るベイベーミニシアター創作上演の機会を得て『MARIMO』（作：朝比奈緑、演出：ジャッキー・E・チャン、主催：日本児童・青少年演劇劇団協同組合）を創作しました。言葉を介さない表現の世界を子どもたちと一緒に作り上げるこの「MARIMO」を、愛知県美術館の展示室で実施した様子を撮影・編集し、映像作品として公開します。

12月19日(土)、20日(日) | 撮影@愛知県美術館

朝比奈、川原は両日、取材対応可能。
山田晋平は12月19日のみ対応可能。

●アーティスト

劇団うりんこ／うりんこ劇場

1973年創立以来、名古屋市を拠点に学校の演劇鑑賞会を主軸とした公演のほか、作品制作、子どもたちの表現教育、子育て支援などの活動を行っている。「うりんこ」とは「猪の子ども」を意味する。朝比奈緑と川原美奈子は、継続的に『MARIMO』の公演をおこなっている。
<http://www.urinko.jp>

朝比奈緑

(あさひな・みどり)愛知教育大学(美術科)卒業。劇団うりんこに入団、巡回公演をする。劇団の活動の中でスウェーデンの演出家に出会い、より五感に訴える児童劇に興味関心を強く持つ。乳児対象の企画に携わるようになり初めての作品『MARIMO』を創作。

川原美奈子

(かわはら・みなこ)愛知県西尾市出身。劇団うりんこに入団、巡回公演活動後、長女出産を機にうりんこ劇場の企画制作に携わる。またコミュニケーションワークショップの講師を教育の現場で務める。乳幼児向け作品へ興味を持ち2008年から地域の子育て支援センター、民生委員、子育て支援団体の要望に応える形で小作品を創り提供すると共に関係者との繋がりを深める。

●コラボレーター

映像制作：山田晋平(やまだ・しんべい)

衣装：藤谷香子(ふじたに・きょうこ)

楽曲提供：福島一幸(ふくしま・かずゆき)

音響：ノノヤママナコ(ののやま・まなこ)

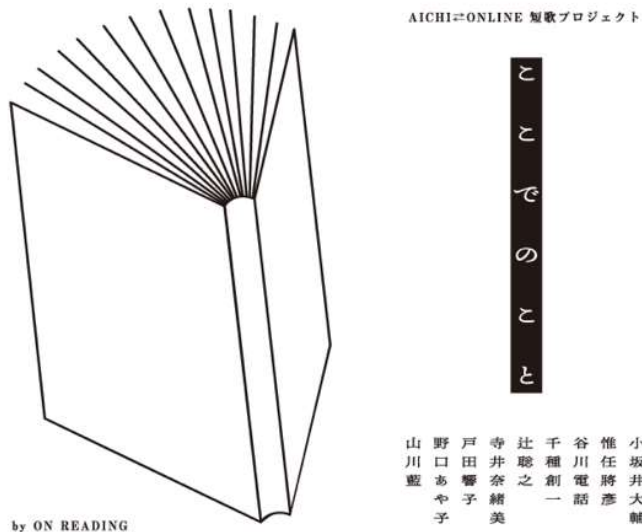
照明：福井孝子(ふくい・たかこ)

企画：ON READING

短歌プロジェクト「ここでのこと」

短歌：小坂井大輔、惟任将彦、谷川電話、千種創一、辻聡之、寺井奈緒美、戸田響子、野口あや子、山川藍
(五十音順)

イラスト：宮崎信恵



名古屋市・東山公園に拠点を構える書店『ON READING』による短歌のプロジェクト。愛知県にゆかりのある9人の歌人、小坂井大輔、惟任将彦、谷川電話、千種創一、辻聡之、寺井奈緒美、戸田響子、野口あや子、山川藍（五十音順）が県内のさまざまな場所にて作歌し、イラストレーター宮崎信恵が短歌にイラストを添えます。

●企画者

ON READING

(オン・リーディング) 2006年に、前身となる書店を名古屋・伏見にオープン。2011年に名古屋・東山公園に移転し、『ON READING』としてリニューアルした。何かを感じたり、疑問に思ったり、考えるきっかけとなるような、多様な価値観を教えてくれる本を、新刊、古本問わずセレクトしている本屋。併設するギャラリーにて様々な作家の展覧会も開催。2009年に、出版レーベル『ELVIS PRESS』を立ち上げ、これまでにおよそ20タイトルをリリースしている。<http://onreading.jp>

●歌人

小坂井大輔

(こざかい・だいすけ) 1980年、愛知県名古屋市生まれ。「未来」短歌会会員。「かばん」会員。短歌ホリック同人。RANGAIメンバー。第一歌集『平和園に帰ろうよ』(書肆侃侃房)刊行。

惟任将彦

(これとう・まさひこ) 1975年兵庫県生まれ。歌人、日本語教師。大学在学中に塚本邦雄ゼミに所属、作歌を始める。歌誌「玲瓏」会員。第28回玲瓏賞受賞。歌集『灰色の図書館』(書肆侃侃房)。

谷川電話

(たにかわ・でんわ) 1986年生まれ。愛知県一宮市出身。2014年、角川短歌賞を受賞。2017年、短歌集『恋人不死身説』(書肆侃侃房)を刊行。

千種創一

(ちぐさ・そういち) 1988年名古屋生まれ。明和高校在中の2005年頃作歌開始。2015年『砂丘律』。2016年、日本歌人クラブ新人賞、日本一行詩大賞新人賞。2020年『千夜曳摺』。

辻聡之

(つじ・さとし) 名古屋市在住。短歌結社「かりん」、同人誌「短歌ホリック」所属。コマダ珈琲店金シャチ会員。2018年に第一歌集『あしたの孵化』(短歌研究社)を上梓。

寺井奈緒美

(てらい・なおみ) ホノルル生まれ、愛知県育ち、東京都在住。趣味は粘土で縁起のよい人形をつくること。2019年に書肆侃侃房(新鋭短歌シリーズ46)から第一歌集『アーのようなカー』を刊行。

戸田響子

(とだ・きょうこ) 未来短歌会慧星集・歌人集団かばんの会に所属。詩形融合作品「煮汁」で第4回詩歌トライアスロン受賞。「拾いながらゆく」で第60回短歌研究新人賞次席。

野口あや子

(のぐち・あやこ) 1987年生まれ。歌集に「夏にふれる」「眠れる海」他。岐阜新聞の写真とのエッセイ連載や、「小説新潮」での小説発表など、散文、コラボレーションにも意欲的に取り組んでいる。

山川藍

(やまかわ・あい) 1980年名古屋生まれ。2018年3月歌集『いらっしゃい』(KADOKAWA)出版。

●イラストレーター

宮崎信恵

(みやざき・のぶえ) 1984年徳島県生まれ。イラストレーター<STOMACHACHE.>として妹、宮崎知恵と共に活動。刺繍、パッチワーク、陶芸、木版画、俳句など表現手法は多彩。絵本『See You Tomorrow』(ELVIS PRESS)。

アーティスト：玉山拓郎

オンライン・インスタレーション『A glass of water (仮)』

VRデザイン：平田尚也



玉山拓郎《Eclipse Dance》2019年 Photo courtesy: Nonaka -Hill

色鮮やかな色彩空間に、家具や日用品、自作の立体をコンポジションすることで夢想的なインスタレーションを制作する気鋭のアーティスト、玉山拓郎。本プロジェクトでは、玉山にとって初めてとなるオンラインの特性を生かした作品を制作します。現実にはない仮想空間を作り出し構成するオンライン・インスタレーション作品を発表します。

●アーティスト 玉山拓郎

(たまやま・たくろう) 1990年岐阜県生まれ。愛知県立芸術大学卒業後、2015年東京藝術大学大学院修了。鮮やかな色彩の日用品や照明、映像を用いたインスタレーションを制作。ブラシ、モップ、皿、ソファなど多岐にわたるファウンド・オブジェクトと、独自のペインティングや映像の色調、モノの律動、音響を組み合わせることによって、緻密なコンポジションを持った空間を表現している。近年の主な展覧会に、「開館25周年記念コレクション展 VISION Part 1 光について / 光をともして」(豊田市美術館、2020年)、「VOCA展 2020」(上野の森美術館、2020年)、「Takuro Tamayama and Tiger Tateishi」(Nonaka-Hill、ロサンゼルス、2019年)などがある。

●VRデザイン 平田尚也

(ひらた・なおや)

アーティスト：西尾佳織／河村美雪

映像プロジェクト

『この町に住んでいる絵に会いに行く』

12月27日(日) 14時以降

@ 豊橋市美術博物館

同日開催される作品制作の撮影は取材不可だが、撮影後に西尾、河村がインタビューなど取材対応可能。



作品イメージ

劇団・鳥公園を主宰する劇作家、演出家の西尾佳織と現代美術作家の河村美雪による、インタビューと映像のプロジェクト。「アートって、やってる人以外にはずいぶん遠いものっぽい…」と思った西尾が、自分の同級生にあたる1985年生まれ、愛知県在住の女性たちに、豊橋市美術博物館の所蔵作品カタログを見ながら質問をします。

「今のあなたに近い絵はどれですか？」

「1年前は？ そのとき何をしていましたか？」

「じゃあ10年前は？」

インタビューで話題に上がった作品のコレクションされた経緯を調べ、インタビューーたちと豊橋市美術博物館に作品を見に行きます。多くは私たちよりも前に生まれて、いつかのタイミングでこの町に来た作品を見ながら、人にとってアートがどういうものであるのか考えます。

●アーティスト

西尾佳織

(にしお・かおり) 劇作家、演出家、鳥公園主宰。1985年東京生まれ。幼少期をマレーシアで過ごす。2007年に鳥公園を結成以降、全作品の脚本・演出を務めてきたが、2020年より3人の演出家を鳥公園のアソシエイトアーティストとして迎え、自身は劇作・主宰業に専念する体制に移行。「正しさ」から外れながらも確かに存在しているものたちに、少しトボけた角度から、柔らかな光を当てようとしている。2015年よりセゾン文化財団フェロー。

<https://www.bird-park.com/>

河村美雪

(かわむら・みゆき) 2001年のブラジルのアートセンターでの個展以降、世界各地で作品を発表。映像や音、言葉など多様なメディアを用いて世界の見え方が変わる瞬間を作り出す。インタビューを舞台上で行うインタビュー・ショウ、科学者と共同で開発した人工生命『音の海』や、世界の地域の本屋に本が移動していくプロジェクト『移民する本』など、作品形式は多岐に渡る。直近の展覧会は、2018年のロサンゼルスでのグループ展「BARBARA, or Ardor」(Grice Bench)。

企画：西田雅希 アーティスト：黒川岳

1月(日程未定) |

大甕や土管を移動・洗浄 @とこなめ陶の森

2月26日~3月30日(仮)の金~日・祝 |
展示 @アトラボあいち

取材はいつでも可。企画者・作家は在廊しないので、要申込。

会期中の平日(日時未定、無観客) |

サウンドパフォーマンス収録・配信
@アトラボあいち

ただし収録に映り込まないように制限あり。

サウンド・インスタレーション 『甕々の声(仮)』



黒川岳《listening to stone》2016年

常滑市で伝統的に生産されてきた大甕と土管。長らく海辺の街常滑から海路で運ばれ、全国の家庭の水甕に、寺院や舞台での音響装置に、戦時の燃料タンクに、医療用の劇薬保存にと、さまざまな場面で活躍してきたこれらかつての主力製品は、今はその実用的役目を終え、常滑の陶産業の象徴として静かに街なかや資料館に眠っています。本プロジェクトでは、とこなめ陶の森資料館所蔵の甕と土管の一部を、今も戦前の常滑焼装飾タイルのファサードが生きた資料として残る名古屋市内の施設「アトラボあいち」に運び込み、サウンド・インスタレーションとオンラインプロジェクトを展開します。突如として日常に出現した空洞と誰もが向き合う今、容れ物として空間を内部に担保することを宿命づけられた巨大な甕の物質性と、それらが果たしてきた役割、そしてその甕の中で鳴り続ける音に彫刻家・黒川岳が向き合い、私たちの意識や身体の中に存在するvoid(空洞)と、普段触れているさまざまな物体との距離、それらを取り巻く空間について再考します。また、現場とオンラインそれぞれに全く違った作品体験を創出する試みとして、展示室内で無観客の音楽イベントを行い、オンライン配信します。

●企画者

西田雅希

(にしだ・まき) インディペンデント・キュレーター。慶應義塾大学文学部卒業。ロンドン大学UCL美術史学修士課程修了。2007年に渡英後、美術大学、美術館からコマーシャルギャラリーまで、公と民のさまざまな組織でアートの仕事に携わる。あいちトリエンナーレ2016アシスタント・キュレーターを経て日本に拠点を移し、以降国内外でキュレーションや執筆、リサーチを行う。近年の企画に「大京都2017 in 舞鶴」、「On Line Dot」(Devi Art Foundation + The Japan Foundation New Delhi, 2017年)、リサーチワークに大林財団制作助成事業リサーチャー(2019~20年)、Tabakaleraレジデント・キュレーター(スペイン、サンセバスチャン、2016年)など。

●アーティスト

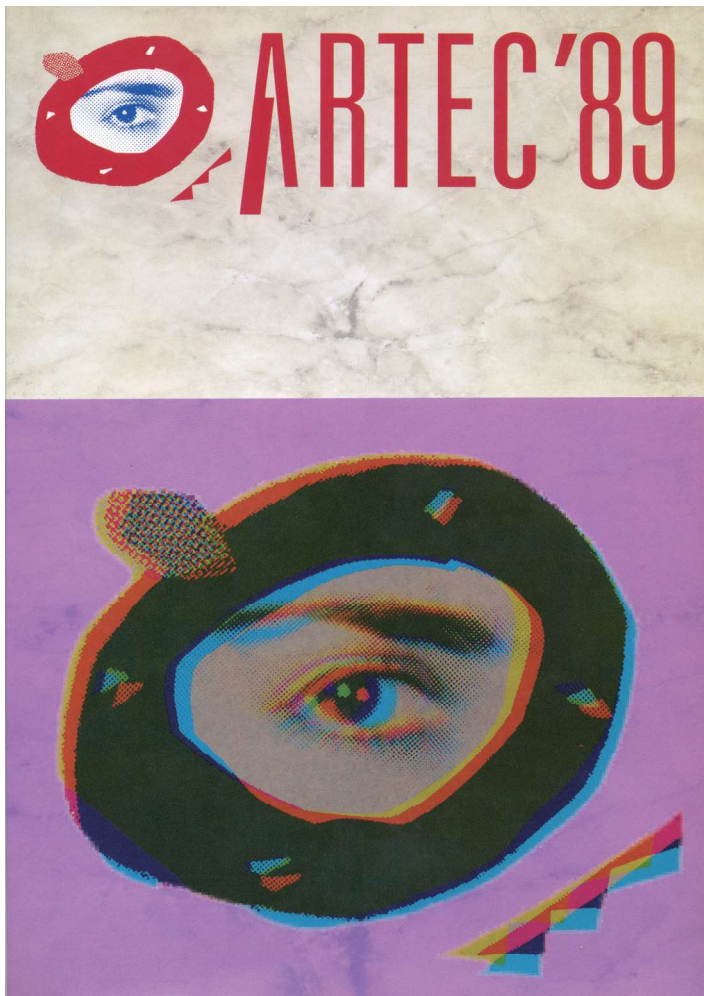
黒川岳

(くろかわ・がく) 1994年島根県生まれ。2016年東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科卒業、2018年京都市立芸術大学大学院彫刻専攻修了。物や環境と身体との関係に着目し、彫刻やパフォーマンス・音楽などの作品を制作している。近年の展覧会に、『そして、それはいつか土へと(「奈良・町家の芸術祭はならあと2020」)』(旧米谷家住宅、奈良、2020年)、『ニューミュージーション#3』(京都芸術センター、2020年)、『京芸transmit program 2019』(京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、2019年)などがある。

企画：明貫紘子

アーカイブ・プロジェクト「Archive of Media Art in Aichi (仮)」

UIデザイン／プログラム：林洋介



カタログ表紙「第1回名古屋国際ビエンナーレ・ARTEC'89」編集・発行：中日新聞社、1989年
資料提供：森茂樹、名古屋市美術館

1989年に「世界デザイン博覧会」の一環として開催された「名古屋国際ビエンナーレ・ARTEC（アーテック）」は、以降1997年までに全5回開催されたフェスティバルで、メディアアートの発展期を支えました。会場であった名古屋市美術館や名古屋市科学館に展示された作品は、愛知県内の文化施設等に所蔵されることもありました。

「Archive of Media Art in Aichi (仮)」では、愛知県美術館、愛知芸術文化センター、名古屋市美術館などに残るメディアアートに関連する資料をリサーチしてアーカイブするプロジェクトです。UIデザイナー・プログラマーの林洋介氏と協働し、ARTECを中心に1980年代から2000年代までの愛知県内におけるメディアアートの動向が分かる年表と資料をオンライン上で閲覧できるアーカイブを制作します。

●企画者

明貫紘子

(みょうかん・ひろこ) 筑波大学芸術専門学群総合造形コース、岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー (IAMAS) ラボ科卒業。NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] 学芸員、inter media art institute Duesseldorf (imai, ドイツ) の客員研究員を経て、現在、石川県を拠点にインディペンデント・キュレーター兼メディアアート研究者として活動する。Eizo Workshop (www.eizo.ws) 代表。

●UIデザイナー・プログラマー

林洋介

(はやし・ようすけ) 情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 修了後、広告制作会社、ゲーム会社を経てフリーランスのUIデザイナー・プログラマーとして活動。2018年に株式会社HAUS (<https://h4us.jp>) を共同設立し、Web開発やインタラクティブな展示物の制作に関わっている。

漫画：三浦よし木

読み切り漫画『花をうめる』（原作：新美南吉）



新美南吉記念館でのインタビューやリサーチを経て、愛知県知多郡半田町（現在の半田市）出身の児童文学者である新美南吉の小説「花をうめる」（1939）を原作にした描き下ろし漫画に取り組みます。

●アーティスト
三浦よし木

（みうら・よしき）漫画家／美術家。1989年愛知県半田市出身。25歳のときに講談社の新人賞「第37回MANGA OPEN」に応募した読みきり作品『僕の変な彼女』で東村アキコ賞と編集部賞のダブル受賞を果たす。また、本名の杉浦由梨の名義で美術活動をしており「も」という文字オブジェの上で24時間生活した記録映像の公開と、ドキュメンタリー漫画を同時期に発表するなど、領域横断的に活動を展開している。